

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症 状	診 断	治療方法	予防方法	感染期間	登園のめやす	保育所において留意すべき事項
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群	3～6日	飛沫感染 接触感染 糞口感染 (経口)	突然の高熱(1～3日続く)、咽頭痛、口蓋垂付近に水疱疹や潰瘍形成 咽頭痛がひどく食事、飲水ができないことがある。 <合併症>熱性痙攣、脱水症	臨床的診断	対症療法	ワクチンはない	唾液へのウイルスの排泄は通常1週間未満 糞便への排泄は発症から数週間持続する。	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、普段の食事ができること	<ul style="list-style-type: none"> ・1～4歳児に好発。 ・6～8月にかけて多発する。 ・回復後もウイルスは、呼吸器から1～2週間、糞便から2～4週間にわたって排泄されるので、おむつ等の排泄物の取扱いに注意する。
伝染性紅斑 (リンゴ病)	ヒトパルボウイルスB19	4～14日 (～21日)	飛沫感染	軽いかぜ症状を示した後、頬が赤くなったり手足に網目状の紅斑が出現する。発しんが治っても、直射日光にあたりたり、入浴すると発しんが再発することがある。稀に妊婦の罹患により流産や胎児水腫が起こることがある。 <合併症>関節炎、溶血性貧血、紫斑病	臨床的診断 血清学的診断	対症療法	ワクチンはない	かぜ症状発現から顔に発しんが出現するまで	発しんが出現した頃にはすでに感染力は消失しているので、全身状態が良いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、学童期に好発する。 ・保育所で流行中は、妊婦は送迎等をなるべく避けるか、マスクを装着する。 ・発症前にもっとも感染力が強いため対策が難しい疾患である。
単純ヘルペス感染症	単純ヘルペスウイルス	2日～2週間	接触感染 (水疱内にあるウイルス)	歯肉口内炎、口周囲の水疱 歯肉が腫れ、出血しやすく、口内痛も強い。治癒後は潜伏感染し、体調が悪い時にウイルスの再活性化が起こり、口角、口唇の皮膚粘膜移行部に水疱を形成する(口唇ヘルペス)。	臨床的診断	アシクロビル等の内服、静注、軟膏	ワクチンはない	水疱を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること (歯肉口内炎のみであればマスク着用で登園可能)	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫不全の児、重症湿疹のある児との接触は避ける。 ・アトピー性皮膚炎などに単純ヘルペスウイルスが感染すると、カポジ水痘様発疹症を起こすことがある。これは、水痘とは全く別の疾患である。 ・遊具は個人別にする。